

# 単体サーバのアップグレード手順（2017.2 -> 2019.1）

## 説明

単体サーバでのアップグレード手順（2017.2 -> 2019.1）は以下の通りです。  
※パッケージインストールではない場合の手順となります。



### 重要

- ・LinuxOSでの作業手順です。
- ・Helix Coreサーバを起動しているOSユーザが"root"として説明を行っています。  
"root"以外のユーザで実行している場合、環境に合わせてコマンド実行ユーザと権限設定をお願いします。  
ご不明の場合は、作業前にテクニカルサポートまでご連絡ください。

## 手順

### 1. Helix Coreサーバの停止

以下のコマンドから、Helix Coreサーバを停止します。

#### 実行コマンド

```
# p4 -p server:port -u super admin stop
```

- \* **server:port**には、アップグレード対象のHelix Coreサーバを指定します。
- \* **super**には、super権限ユーザを指定します。

### 2. チェックポイントの取得

p4dプログラムのバージョンアップを開始する前にチェックポイントを取得します。  
チェックポイントを取得するには、以下のコマンドを実行します。

#### 実行コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -jc
```

- \***P4ROOT**には、環境に適したパスを指定します。

### 3. p4dプログラムのバックアップ

既存の"p4d"プログラムをバックアップします。

#### バックアップコマンド例

```
# mv /usr/sbin/p4d /usr/sbin/p4d_20172
```

- \*ここでは、既存の"p4d"プログラムが**/usr/sbin**に配置されている前提とします。

### 4. p4dプログラム (Ver.2019.1) のダウンロード

ダウンロードサイトから"p4d"プログラム (Ver.2019.1) をダウンロードします。  
この手順では、"p4d"プログラムを**/tmp**へダウンロードした例として説明します。

#### ダウンロードサイト

[Helix Core \(Perforce\) 製品ダウンロード](#)

### 5. パーミッション設定

ダウンロードした"p4d"プログラムへ実行権を追加するため、以下のコマンドを実行します。

#### パーミッション設定コマンド例

```
#chmod +x /tmp/p4d
```

### 6. p4dプログラム (Ver.2019.1) の配置

手順4でダウンロードした"p4d"プログラム (Ver.2019.1) を**/usr/sbin**配下へ配置します。

#### 配置コマンド例

```
# mv /tmp/p4d /usr/sbin
```

#### 7. p4dバージョンの確認

以下のコマンドを実行し、p4dバージョンがアップグレードされていること、コマンドパスが通っていることを確認します。

#### バージョン確認コマンド例

```
# p4d -V
```

#### 期待する結果

```
...  
Rev. P4D/LINUX26X86_64/2019.1/1865205 (2019/10/11).  
License: none
```

#### 8. Helix Coreデータベースの更新

以下のコマンドを実行して、Helix Coreデータベースを更新します。

#### データベーススキーマ更新コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -xu
```

\*P4ROOTには、環境に適したパスを指定します。

#### 期待する結果

```
2018.1: removing existing db.graphindex.  
2018.2: Initialize Extensions depot and server.extensions.dir.  
2018.2: Normalize a field in the triggers table.  
2019.1: building db.storage from db.rev, db.revsh and db.revtx  
2019.1: Adding default namespace to Extension configurations ...upgrades done
```



#### 注意

データベーステーブル"db.rev"関連の情報が多い場合、一時的にコマンドの応答が遅くなる場合があります。コマンドを強制終了しないように注意してください。

- 対象メッセージ  
2019.1: building db.storage from db.rev, db.revsh and db.revtx

#### 9. Helix Coreサーバの起動

通常手順でHelix Coreサーバを起動します。ここでは、起動コマンド例を紹介します。

#### 起動コマンド例

```
# p4d -r P4ROOT -p 1666 -L log -v server=3 -d
```

\*P4ROOTには、環境に適したパスを指定します。

#### 10. Helix Coreバージョンの確認

以下のコマンドを実行し、起動中のHelix Coreサーババージョンがアップグレードされていることを確認します。

#### バージョン情報確認コマンド例

```
# p4 -Ztag info
```

### 期待する結果

...  
Server version: P4D/LINUX26X86\_64/2019.1/1865205 (2019/10/11) ...

### 11. "db.storage"の構築状況確認

Ver.2019.1から、新しく"db.storage"テーブルが追加されました。  
このテーブルは、バージョンアップ後にHelix Coreサーバを起動するとともにバックグラウンドで構築が始まります。  
構築状況は、以下のコマンドから確認できます。

### 構築状況確認コマンド例

```
# p4 -u super -p server:port storage -w
```



#### 補足

200 GBを超えるdb.revテーブルがある環境では、完了までに数時間かかる場合があります。

構築終了時には、以下のコマンド結果を返却します。

### 終了時の返却メッセージ

The storage upgrade process is complete.

アップグレード手順は以上となります。